

みる つくる がたる

APPRECIATE

DISCUSS

CREATE



VOL.24
1998

ART NEWS
千葉県立美術館



パリの東南約60kmに位置する小村・グレー村は、浅井忠の滞欧時代を象徴する場所です。

初めてグレーを訪れた時の日記に「仙郷にあるの思ひあり」と記したように、浅井はここが大変気に入って、滞欧中に4回も訪れ、数々の名作を制作しました。

浅井の水彩画には、同じモチーフ、同じ構図の作例がよく見られますが、グレー村に現在も残る教会の鐘楼も、浅井が好んで描いたモチーフのひとつで、同じ構図の秀作がいくつか知られています。

それらと同じ鐘楼を描いたこの作品は、フランスに残された数少ない浅井の作品のひとつで、人家からたなびく煙や逆光を浴びた鐘楼などを、大まかな筆触とにじみの効果を活かして、見事に描写しています。

このようなグレー村で制作された水彩画の数々は、その高い完成度によって、今日まで珠玉の輝きを保っています。

みる

— 没後90年記念 —
〈特別展〉

浅井 忠 展

6/6^土 - 7/12^日

「グレーの教会」
紙・水彩 明治34年(1901)頃

「グレーの教会」
明治34年(1901)頃 水彩・紙

— 没後90年記念 —
〈 特別展 〉

浅井 忠 展

当館では、開館以来、千葉県ゆかりの作家浅井忠について重点的な調査研究を行い、現在油彩、水彩、日本画、工芸などの作品約180点を始め、下絵や書簡などの資料約1280点を所蔵し、名実ともに日本有数の浅井忠コレクションを形成しています。

今回の展覧会は、これまでの研究成果を基に京都国立近代美術館、京都新聞社と共催して開催するものです。

日本の近代洋画の先駆者・浅井忠

浅井忠は、安政3年(1856)に佐倉藩の江戸屋敷で生まれ、幼少期を佐倉で過ごしました。新設された工部美術学校に入学し、ミレーやコローなどの流れをくむイタリア人画家フォンタネージから本格的な美術教育を受けました。

その後、東京美術学校教授となつて約2年間ヨーロッパに留学し、パリ郊外のグレーの風景画など優れた作品を制作しました。

帰国後は京都に移住し、京都高等工芸学校教授になるとともに、聖護院洋画研究所や関西美術院を開設し、安井曾太郎や梅原龍三郎、黒田重太郎らを育て、明治40年(1907)に51歳で亡くなりました。

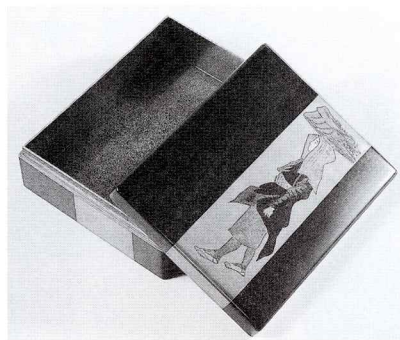


「農夫帰路」明治20年(1887)
油彩・キャンバス
ひろしま美術館蔵

展覧会の見どころ1

— 浅井芸術の全貌を紹介 —

今回の展覧会では、浅井忠の幅広い活動の全容を御紹介するため、初期から晩年までの油彩画や水彩画の代表作を網羅するばかりでなく、京都時代の日本画、遊陶園や京漆園などの工芸研究団体での活動を物語る工芸品や図案など、約240点の作品と日記などの関係資料を展示します。



「白川女図小手篋」明治42年(1909)
漆器

展覧会の見どころ2

— 海外からの里帰り作品の数々 —

表紙で御紹介した「グレーの教会」のほかにも、イタリア、台湾に残る作品も展示します。

【徳川家の霊廟】

明治11年(1878) 油彩・キャンバス

浅井の師・フォンタネージが、帰国の際に日本から持ち帰った作品で、彼の死後、トリノ市近代美術館に寄贈されました。当初フォンタネージの作品とされていましたが、約20年前の調査で洗浄したところ、浅井の署名が現れ、浅井の作品と確認されたものです。

【湯島聖堂大聖殿】

明治29年(1896) 油彩・キャンバス

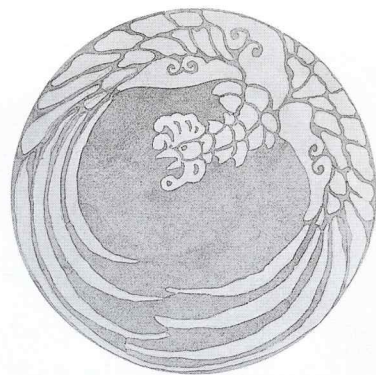
東京高等師範学校のOB会が、台湾に赴任した日本語教師への贈呈用にと浅井に制作を依頼した作品です。現在は、台北市の士林国民小学に所蔵されています。

【鳳凰】などの図案

フランスに留学した浅井は、当時流行していたアール・ヌーヴォー様式に共感を抱き、図案制作に

情熱を注ぎます。今回の里帰り作品は、いずれも浅井がアール・ヌーヴォーへの興味と理解を示した作品の好例です。

陶器図案「鳳凰」は、浅井が、フランスの陶芸家のアトリエで、皿や小鉢の装飾を試みた時の図案で、それを基に制作された陶皿が、当館所蔵の「鳳凰飾皿」であることが確認されています。



「鳳凰」明治33～35年(1900～02)
着色・紙

浅井忠展の決定版

一昨年には、黒田清輝を中心に結成された白馬会の結成100年記念展が開催されるなど、近年、日本の洋画表現の歴史への関心が高まっています。

今回の展覧会は、文字通り「浅井忠展の決定版」ともいえる、これまでで最大規模の回顧展です。

黒田清輝と並んで日本の近代美術史上重要な位置を占める浅井忠の軌跡を再検討する、またとない機会ともいえるでしょう。

開館時間／午前9時～午後4時30分

入場料／一般 710円(400円)

高・大学生 400円(250円)

小・中学生 200円(70円)

※()内は20名以上の団体料金

休館日／毎週月曜日(6月15日(月)は開館し、6月16日(火)は休館)

常設収蔵作品展

各テーマごとに本館が収蔵する日本画、洋画、彫刻、工芸、書、版画等の作品を展示します。

＜これからの展覧会＞

◆「金工の世界・津田信夫と

香取秀真」

7月25日(土)～8月30日(日)

千葉県出身であり、明治期金工界の代表的作家である津田信夫と香取秀真の作品を紹介します。

◆「美術の中の表現・夏」

7月25日(土)～8月30日(日)

自然や風物等、夏を感じさせる日本画・洋画作品を紹介します。

◆「こどものための展覧会」

7月25日(土)～8月30日(日)

日本画、洋画を中心に、お子様を対象とした作品の紹介をします。

◆「房総と近代美術」

7月25日(土)～10月11日(日)

房総ゆかりの作家や、鑑賞の要望の高い作品を日本画、洋画、彫刻、工芸、書から紹介します。また、一部展示替えをし、1月30日(土)～3月22日(月)にも開催します。

◆「房総の工芸」

9月5日(土)～10月11日(日)

魅力あふれる多様な工芸作品を紹介します。

◆「浜口陽三・深沢幸雄の世界」

11月21日(土)～12月6日(日)

千葉県を代表し、現在も活発な活動を続ける2人の版画家の作品を紹介します。

◆「彫刻」

1月5日(火)～4月11日(日)

様々な表現による彫刻作品を紹介します。

◆「書の世界」

1月30日(土)～3月22日(月)

房総の代表的な書家に焦点をあて、多様な書の表現を紹介します。

◆「美術の中の表現・花」

1月30日(土)～3月22日(月)

美術の主要なモチーフとして取上げられている花を描いた作品を日本画、洋画を中心に紹介します。

企画展＜房総の美術家シリーズ②＞

木村 和一 展

木村和一(1888～1963)は、山形県に生まれ、大正末期から昭和30年代にかけて活動し、鴨川で死去した染色工芸作家です。

木村が作家活動を始めた大正末期から昭和初期は、帝展への工芸部門の開設要求や、无型、実在工芸美術会の結成など、明確な作家意識を持って個性的な表現を目指した一部の工芸家たちによる工芸運動が大きな昂まりを見せた時代でした。

木村も、それらの工芸運動のリーダーのひとりとして活躍し、日本の近代工芸史上にその名をとどめていますが、その生涯や作品は、これまでほとんど紹介されることがありませんでした。

今回の展覧会では、木村和一の“人と芸術”を再発見するため、実在工芸美術会展の出品作を含めた作品と関係資料約60点を展示する予定です。お楽しみに。



「風呂先屏風」昭和14年(1939)

第4回実在工芸美術会展

会期／9月5日(土)～10月11日(日)

入場無料

企画展

第22回千葉県移動美術館

より多くの県民の方々に、本館所蔵の作品を鑑賞していただくため、以下の2会場で展覧会を開催します。展示作品は、日本画、洋

画、彫刻、工芸、書、版画の各分野にわたる約40点を予定しています。

■第1会場

会場／鴨川市民ギャラリー

会期／11月20日(金)～12月3日(木)

住所／鴨川市横渚893

電話／0470-93-2366

■第2会場

会場／浦安市民プラザ

会期／12月6日(日)～12月17日(木)

住所／浦安市入船1-4-1

電話／047-350-3101

特別展「自然を描く—ミレーとバルビゾン派の画家たち—」

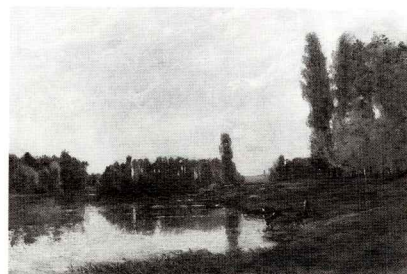
19世紀半ば、ミレー(1814-1875)を始め、パリ郊外のバルビゾン村に住んだ画家たちは、自然や動物、そこに生きる農民たちの日常生活を積極的に描きました。

彼等は、17世紀以来のフランスの伝統であった歴史や神話の場面の舞台としての風景画や理想化された牧歌的風景画を扱うのではなく、フランス国内の名もない場所の自然を主題に、近代的な自然観に基づく新しい風景画を描きました。これらの画家たちをバルビゾン派と呼んでいます。

バルビゾン派は、後の印象派の絵画を育む礎となり、また同時代の欧米諸外国へも多大の影響を及ぼしました。

現在、貴重な自然が失われている状況にあり、自然の素晴らしさを見直す機運が高まっています。

本展覧会は、ミレーを始めとするバルビゾン派の画家たちが、自然との対話により描いた作品を紹介し、彼等の果たした業績を回顧します。



ドービニー「オワーズ川のほとり」1865年

がたるつくる

□ 実 技 講 座 □

県民の方を対象に創作の喜びを味わっていただくために、各種実技講座を行っています。

※開設時間 12:30～4:30

◆陶芸講座

会期 6月23・24・25・7月10・14・15・
16・30・8月6日
講師 ^{やりた} 鎗田 ^{わへい} 和平
内容 茶碗・花器など
定員 30名
締切 6月9日(火)

◆彫刻講座

会期 8月26・27・28・9月2・3・4・8・
9・11・12日
講師 ^{ふくなが} 福永 ^{すける} 巨
内容 木彫
定員 15名
締切 8月12日(水)

◆版画講座

会期 11月18・19・20・21・22・25・
26・27・28・12月1・2・3日
講師 ^{ますだ} 増田 ^{よういち} 陽一
内容 銅版・亜鉛板・エッチング・
アクワチント
定員 20名
締切 11月4日(水)

◆書講座

会期 12月8・9・10日
講師 ^{うつつぎ} 宇津木 ^{じゃくせい} 雀聲
内容 漢字・かな
定員 25名
締切 11月24日(火)

◆金工講座

会期 2月16・17・18・20・21・24・25・
27・28・3月2・3・4日
講師 ^{こばやし} 小林 ^{まさとし} 正利
内容 銅版レリーフ
定員 15名
締切 2月2日(火)

＜申込方法＞

往復ハガキに希望講座名を記し、住所・氏名・電話番号を明記して、(ハガキ1枚につき1名)「千葉県立美術館普及課」あて申し込んでください。但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。



金工講座

□ 美 術 講 演 会 □

特別展「浅井忠展」に併せて、美術講演会を開催します。

演題 「浅井忠の人と芸術」
^{しまだ やすひろ}
講師 島田 康寛氏
(京都国立近代美術館 学芸課長)
期日 6月20日(土)
2:00～3:30
会場 美術館講堂
定員 200名
料金 無料
※入場は、当日先着順です。

□ こども写生会 □

県内の小学生を対象に、創作の喜びを体験してもらい、美術を愛好する心情を育み、豊かな情操を養うとともに、美術館との触れ合いを通して、美術館活動への関心と興味を醸成し、利用促進を図るため、写生と展示による「第3回こども写生会」を開催します。

写生会 6月27日(土)
内 容 四つ切り大画用紙
(36.4×51.5cm)に、絵の具、

クレパスなど自由な画材で千葉県立美術館周辺の風景、施設などを写生します。作品は当日提出していただきます。

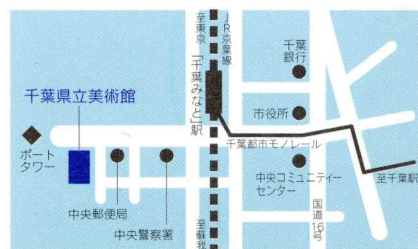
参加者 県内の小学生100名
(原則として保護者の方も御同伴ください)
参加料 無料
表彰等 出品者全員に記念品を用意
出品作品の中から、最優秀賞等を決定
展覧会 7月22日(水)
～7月26日(日)
千葉県立美術館 第6展示室
表彰式 7月25日(土)

＜申込方法＞

往復ハガキに「こども写生会参加希望」と記し、住所・氏名(ふりがな)・電話番号・学校名・学年を明記して、「千葉県立美術館普及課こども写生会係」あて申し込んでください。6月17日(水)必着
但し、応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。

＜美術館案内＞

●JR「千葉」・京成電鉄「京成千葉」駅より「千葉ポートタワー行」バス15分「美術館・中央郵便局前」下車徒歩1分
●JR(京葉線)・千葉都市モノレール「千葉みなと」駅下車徒歩8分



〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1
☎043 (242) 8311 (代)